

スミスネズミ *Myodes smithii* (Thomas)

【選定理由】

日本固有種で、本州の南方と四国、九州、隠岐島後に生息するが、県内では三河地域の4市1町1村と尾張地域の1市で生息が認められるにすぎない。森林とその周辺に生息し、山地での道路建設やダム造成によって個体群が分断されやすく、縮小・孤立化した小個体群が絶滅する可能性がある。

【形態】

体重20～35g、頭胴長75～115mm、尾長33～55mm、後足長16.0～18.5mm、耳介長10.0～13.5mm、頭骨最大長22.0～25.7mm(阿部, 2000)。背面の毛色は赤褐色から黄褐色まで変異があり、腹面は黄褐色。体の大きさは南方のものが北方のものより大きくなる傾向がある。短い尾を持ち、尾率は通常40～60%の範囲にある。頭蓋はやチネズミより小さく、鼓室胞はやや小さく扁平。大臼歯は生涯無根。乳頭式は0+0+2=4または1+0+2=6。歯式はI1/1,C0/0,P0/0,M3/3=16。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根村(旧豊根村、富山地域)、設楽町(旧設楽町、津具地域)、豊田市(旧豊田市、稲武地域、旭地域、小原地域、下山地域)、新城市(鳳来地域、作手地域)、豊川市一宮町、岡崎市額田町、瀬戸市。

【国内の分布】

新潟・福島県以南の本州、四国、九州、隠岐島後に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

【生息地の環境/生態的特性】

低地から高山までの森林およびその周辺にすみ、落葉・腐食層の厚い湿潤な環境に多い(阿部, 2000)。草本類の葉や茎に加え、種子などを菜食する。繁殖期は地域によって異なり、南方では春と秋の2山型、北方では夏の1山型となっており、1回に1～6仔、通常2～3仔を産む(金子, 1992a; 宮尾, 1967)。天然林に多く、人工造林地にはほとんど生息しない(金子, 1992b)。

【現在の生息状況/減少の要因】

愛知県内の分布は大半が三河地域で、尾張地域では瀬戸市にのみ生息が認められる。三河地域の個体群は連続的なものが多いと考えられるが、瀬戸市の個体群が三河地域の個体群と連続的な分布をしているか現時点では不明である。減少の要因としては、道路造成、ダム湖の造成、伐採や開発にともなう森林面積の減少などがあげられる。

【保全上の留意点】

沖積平野や主要国道はスミスネズミの分布障壁となる(金子, 1992b)から、個体群分断化のおそれのある地域での森林面積の減少や分断をともなう開発は個体群の分断と個体数の縮小をまねくおそれがある。個体群の分断をもたらないような回廊の設置や、失われる可能性のある分布面積に匹敵する代替環境造成として潜在植生の復元などをはかる必要がある。

【特記事項】

日本哺乳類学会では危急種とされ、なかでも「愛知県尾張」の個体群は「保護すべき地域個体群」のひとつに指定されている(村上・金子, 1997)。

【引用文献】

- 阿部 永, 2000. 日本産哺乳類頭骨図説, 279pp. 北海道大学図書刊行会, 札幌.
金子之史, 1992a. 日本の哺乳類(17)スミスネズミ. 哺乳類科学, 32: 39-54.
金子之史, 1992b. 四国における野ネズミ3種の地形的分布. 日本生物地理学会会報, 47: 127-141.
宮尾嶽雄, 1967. 日本列島における小哺乳類の地理的変異に関する研究I. スミスネズミの地理的変異第2報. 後足長, 尾長, 仙尾椎骨数および繁殖活動の地理的変異. 成長, 6: 7-18.
村上興正・金子之史, 1997. ネズミ亜目 MYOMORPHA. レッドデータ日本の哺乳類, pp.75-90. 文一総合出版, 東京.

【関連文献】

- 原田猪津男, 1996a. ほ乳類. 稲武町史-自然-資料編, pp.377-380. 稲武町, 愛知県北設楽郡稲武町.
原田猪津男, 1996b. ほ乳類. 設楽町誌『自然編』『資料編』, pp.585-593. 愛知県北設楽郡設楽町, 設楽町.
宮尾嶽雄・花村 肇・高田靖司・酒井英一, 1984. 哺乳類. 愛知の動物, pp.286-235. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.

県内分布図

